**ハンドマイク街頭演説原稿例　　総選挙結果・公約実現へ全力**

二〇二一年一一月五日　日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　先日の総選挙で、日本共産党は現有１２議席から１０議席に後退する結果となりました。比例北関東ブロックでは、塩川鉄也前衆院議員の議席を確保しました。しかし、梅村さえ子元衆院議員の議席奪還はなりませんでした。党の力が足りず、痛恨の結果となりましたが、ご支援いただいたみなさまには心より感謝申し上げます。

　今回の総選挙は、「政権与党」と、「共闘した野党」との対決となり、日本共産党は「政権交代をはじめよう」と力いっぱい訴えてたたかいました。今回の野党共闘は、総選挙では初めての挑戦でした。野党４党が共通の政策、政権協力の合意という大義を掲げてたたかい、６２選挙区で野党統一候補が勝利し、３２選挙区で勝利にあと一歩と迫りました。マスコミなどでは、今回の野党共闘を疑問視し、失敗だったとする論調が強まっていますが、今回の野党共闘が一定の効果をあげたことは間違いありません。小選挙区を中心とする今の選挙制度のもとでは、日本の政治を変える道は市民と野党による共闘しかあります。日本共産党は、共闘の道を発展させるために引き続き力を尽くします。

　みなさん、日本共産党は今回の総選挙で約束した「４つのチェンジ」の実現にむけ、今後も全力をあげます。一つ目は、新自由主義の政治から、国民の命と暮らしを最優先にする政治へのチェンジです。「まずは自分でなんとかしろ」と国民に求めるような政治が、医療や公衆衛生の切り捨てや非正規雇用の拡大を進め、日本を不安定で基盤のもろい社会にしてしまいました。こんな政治をあらため、消費税５％への減税、最低賃金１５００円と非正規社員の正社員化、学費半減や入学金の廃止などくらし底上げへがんばります。

　二つ目は、口先だけの「カーボンゼロ」から、気候危機打開へ本気の対策へのチェンジです。世界各国が気候危機への対策を話し合う国連会議・ＣОＰ２６が開かれていますが、石炭火力発電所の新規建設中止などを盛り込んだ声明に日本は賛同しませんでした。先進国のフランスやドイツ、韓国を含む４０カ国余りが声明に賛同したのと比べ、日本政府がＣО２削減にいかに後ろ向きかがよくわかります。日本共産党は、２０３０年までにＣО２の最大６０％削減など提案する「気候危機を打開する２０３０戦略」の実現へ国民と力を合わせていきます。

三つ目は、男女差別のひどい社会から、ジェンダー平等の日本へのチェンジです。男性に比べ女性の生涯賃金は１億円も少ない状況です。企業に男女別賃金の公表を義務付けるなど、男女の賃金格差をなくしていきます。選択的夫婦別姓を実現し、同性婚を認める法改正、性暴力の根絶などをめざします。四つ目は、アメリカ言いなりの政治から、憲法９条を生かした平和外交へのチェンジです。核兵器禁止条約に参加し、核兵器のない世界をめざす運動の先頭に立つ日本の実現へ全力をあげます

　最後に、日本共産党へのご支援を重ねてお願いするとともに、スクープ連発で広く注目をあつめている「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）